

ご使用の前に

まず、商品をご確認ください!!

基材の種類によって使用方法が異なりますので、ご注意ください。

①SKセレクトカラー着色タイプ
⇒BSHG-ML

基材だけの使用はできません。
必ず所定番号の「SKセレクトカラー」(別梱包)
を混練りしてご使用ください。

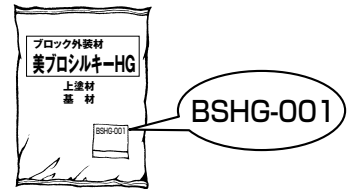


+

←本商品

②基材のみで使用するタイプ
⇒BSHG-001

「SKセレクトカラー」は必要ありません。
基材だけでご使用ください。



BSHG-001

ブロック外装材 **美プロシルキーHG**

施工要領書

適応下地

■ **コンクリートブロック** ●既設のブロック ●新設ブロック

■ **古い外壁面** (水性タイプの吹付けリシンなどで強度のあるもの)

- ※弾性系、撥水処理下地などには、施工できません。
- ※強度のある溶剤系、ペイント下地などには、「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、「美プロシルキーHG」を施工してください。
- ※古壁の種類が水系か溶剤系か判定できない場合は、「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、「美プロシルキーHG」を施工してください。

■ **セメントモルタル** (木鏝をかけたあと金鏝で表面を平らにしたもの)

- ※強度低下の著しいモルタルやその表面が平滑でない場合は、再度モルタルで全面補強が必要です。

■ **RC**

- ※「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後施工してください。

下地に関する注意事項

- 下地は、十分乾燥させてください。
- 強度がない下地は、剥離の原因になりますので、塗り直してください。
- 釘などで錆の恐れがある場合には、錆止めを施してください。また、塗り替えて釘頭が錆びている場合は、サンドペーパーや研磨布を用いて錆を除去し、錆止めを施してください。
- モルタル下地のひび割れは、アクリル系、変性シリコン系、樹脂セメント系等の充填材による補修を行ってください。
- ブロックの目地部のひび割れは、モルタルによる補修を行ってください。
- 5℃以下での施工は避けてください。また、施工後、塗布面が完全乾燥するまでに0℃以下になる恐れがある場合は、施工を避けてください。
- 「美プロシルキーHG」の製品自体に白華の原因となる成分は配合されておりませんが、ブロック等の下地の白華に起因した白華現象が生じる場合があります。
- 下地が白華している場合は、白華を除去した後、「ジュラックスシーラーB」(別売)を塗布してから施工してください。また、白華の恐れがある場合も、「ジュラックスシーラーB」を塗布してから施工してください。
- 巾木(基礎)部及び土留めには施工できません。

梱包単位

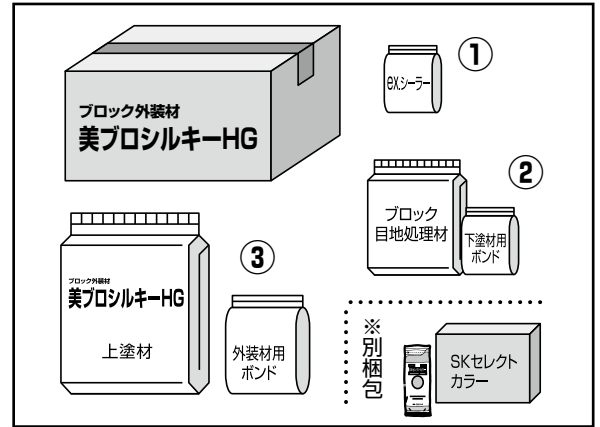
※施工前に梱包内容を確認してください。

■ 1ケース:2㎡入り

■ セット内容

美プロシルキーHG セット	①ex.シーラー
	②ブロック目地処理材 (下塗材用ボンド500gを含む)
	③上塗材 (外装材用ボンド1,500gを含む)

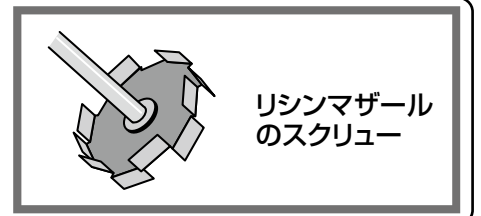
※上記セット品の他に、別梱包の「SKセレクトカラー」が必要です。



- 注意**
- 「ブロック目地処理材」及び「上塗材」の粉体原料と液体原料は、セットされた同一銘柄のものを使用してください。
 - 直射日光の当たる場所、湿気の高い場所、高温(40℃以上)、または低温(0℃以下)の保管は避けてください。

施工方法

- 準備する道具**
- シーラー塗布用容器
 - ウールローラー
 - 刷毛
 - 円形ステンレス容器、または、円形プラスチック容器
(下地処理材18ℓ程度、上塗材30ℓ以上)
 - ステンレスの塗り付け鏝
 - ステンレスの仕上げ鏝(0.2~0.3mm厚)
 - リシンマゼール(右のイラストの様な羽根を使用)
 - 霧吹き器
 - その他左官道具一式



1 下地の清掃及び補修

■コンクリートブロック

●既設ブロック

ワイヤーブラシや高圧洗浄機により、チリ・ホコリ、汚れ、バリなどを除去して清掃してください。ブロックの目地部のひび割れは、目地材をたがねや金づちなどで取り除き、その部分にモルタルを埋め込んで補修を行います。

●新設ブロック

目地鏝による目地付けは行わず、目地部を平滑に仕上げます。そして、チリ・ホコリ、汚れなど除去して清掃してください。

※ブロック塀及び外塀などで盛り土のある場所には施工を避けてください。

※巾木(基礎)部には施工しないでください。

■古い外壁面(水性タイプの吹付けリシンなどで強度のあるもの)

●ワイヤーブラシや高圧洗浄機により、チリ・ホコリ、汚れなどを除去して清掃してください。この際、活膜は残して、劣化塗膜は除去してください。モルタル下地のひび割れは、アクリル系、変性シリコン系、樹脂セメント系充填材による補修を行います。

※弾性系、撥水処理下地などには、施工できません。

※強度のある溶剤系、ペイント下地などには、「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、「美プロシルキーHG」を施工してください。

※古壁の種類が判定できない場合は、「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後、「美プロシルキーHG」を施工してください。

■セメントモルタル(木鏝をかけたあと金鏝で表面を平らにしたもの)

●強度低下の著しいモルタルやその表面が平滑でない場合は、再度モルタルで全面補強が必要です。

※巾木(基礎)部には施工しないでください。

■RC

※「SKカチオンプラスター弾性タイプ」(別売)で全面下地処理後施工してください。

※巾木(基礎)部には施工しないでください。

注意事項

※下地にエフロレッセンス(白華現象)やレイトンス、ドライアウト、ひび割れ、剥がれがある場合は事前補修が必要です。

※下地に汚れ、ほこり等が付着している場合は、ワイヤーブラシ、タワシ、スチールタワシ、ホウキなどを用いて落とし洗浄してください。

② シーラー処理

■下地を十分に乾燥後、「ex.シーラー」を全面に塗布してください。

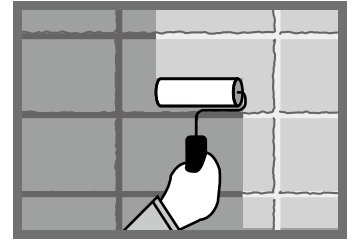
ローラーで全面に塗布。目地部にも塗布してください。

1. 使用方法

- 原液は薄めず、よく振ってから使用してください。

2. 塗布方法

- ウールローラー、または、刷毛で縦、横に丁寧に塗り付けます。
 - 塗布量は、約200g/㎡を目安とします。
(塗布量は下地の状態により多少異なります。)
- ※塗り過ぎには注意してください。

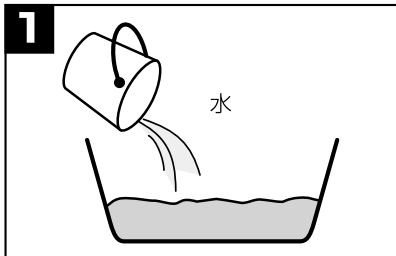


目地処理がない場合は、④上塗りの工程に移ります。

③ 目地(下地)処理

凹凸のある下地で3点セットを使用した場合

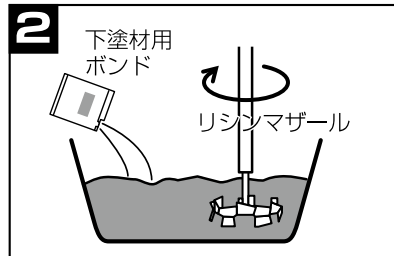
■練り方



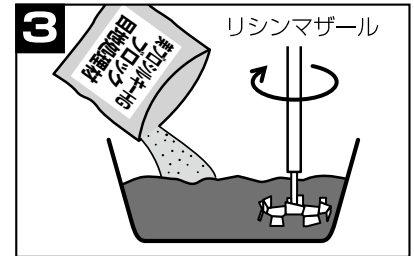
ブロック目地処理材/標準加水量

深さ3mm未満の 目地の場合	0.25ℓ /1袋
深さ3mm以上の 目地の場合	0.20ℓ /1袋

容器(錆のでない物)に標準加水量の8割の水を入れます。



「下塗材用ボンド」を加え、リシンマゼールを使用して、よくかき混ぜます。



次に「ブロック目地処理材」を加え、リシンマゼールを使用してママコやダマがなくなるまでよく練り上げた後、20分ほど練り置きし、下地の状況により残り水を加えて、よく練り上げます。

※水の入れ過ぎは塗り面がダレますので注意してください。

※同一面での塗り継ぎは色ムラの原因となりますので、必要な塗材は一度に混練りします。

※練り上げた材料は、早めに使いきってください。

■塗り方

先に塗布した「ex.シーラー」の乾燥を確認し、ブロック目地処理材を塗り付けます。

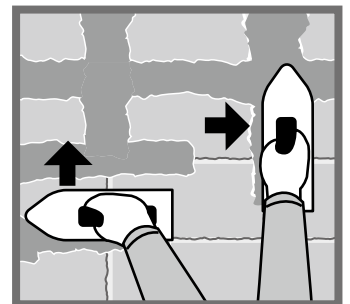
●ブロック塀の場合

「ブロック目地処理材」を0.3mm程度のステンレス鏝で目地部に詰め、余分な塗材は塗布直後に鏝で掻き取り平滑にします。

深い目地でヤセが大きい場合は、再度目地処理材を塗布し、平滑にしてください。また、ブロック面に段差がある場合などは、同時に段差調整してください。

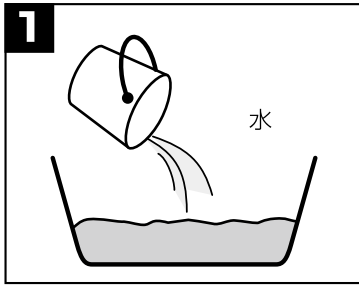
●古壁の場合(リシン仕上げなど)

「ブロック目地処理材」をステンレス鏝で全面的に塗り付けて平滑にします。



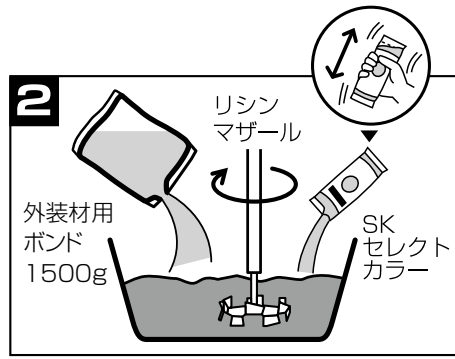
4 上塗り

■ 練り方



上塗材/標準加水量:
1.2ℓ/1袋(2㎡)

容器(錆のでない物)に標準加水量の8割(約1.0ℓ)の水を入れます。

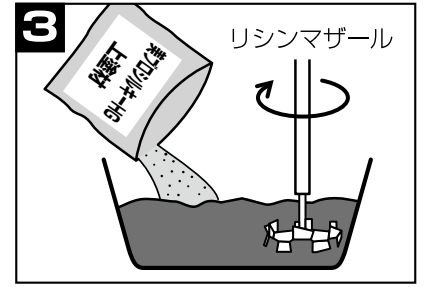


「外装材用ボンド1500g」と「SKセレクトカラー」(別梱包)を加え、リシンマゼールを使用して、よくかき混ぜます。

※必ず指定色番号の「SKセレクトカラー」を使用してください。使用しない場合、着色できません。

※「SKセレクトカラー」は袋をよく振ってから使用してください。必ず全量を使いきってください。

SOO1のみ「SKセレクトカラー」は必要ありません。



次に「上塗材」を加え、リシンマゼールを使用して、軽く練り上げた後、20分ほど練り置きし、下地の状況により残り水を加えて、よく練り上げます。

※水の入れ過ぎは塗り面がダレますので注意してください。

※同一面での塗り継ぎは色ムラの原因となりますので、必要な塗材は一度に混練りします。

※練り上げた材料は、早めに使いきってください。(可使時間は5時間です。)

■ 塗り方

●先に塗り付けた「ブロック目地処理材」が乾燥後、ステンレス鏝で塗り付けます。

●上塗材は2度塗りを標準とします。

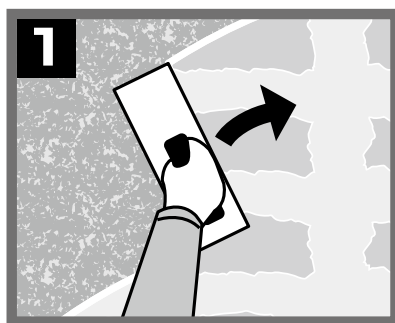
全面にしごき塗りを行い、乾燥後(夏期1時間、冬期2時間後)、仕上げ塗りをを行います。

●しごき塗りの材料はやや硬めに練り、できるだけフラット面になるように塗布してください。

●1回の塗り厚は約1.2mmを標準とします。薄塗りしすぎると、目地ヤセの原因となります。

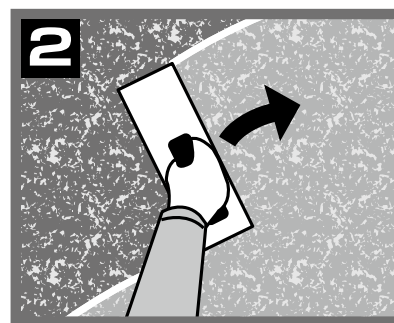
●追っかけ塗りすると、目地ヤセの原因となります。

●模様付けは、仕上げ塗り後に直ちに行ってください。



しごき塗り

乾燥後(追っかけ厳禁)



仕上げ塗り

3

すぐ(乾燥前)に
模様付け

↓
次項参照

上塗り施工の注意

- 材料を軟らかく練りすぎると、乾燥後に目地ヤセが起こります。特にしごき塗りの際は、硬めの材料で塗ってください。
- 模様付けパターンにより、厚塗り(4mm以上)になった箇所や、角張った仕上がりになった場合は、ヒビ割れの恐れがありますのでご注意ください。

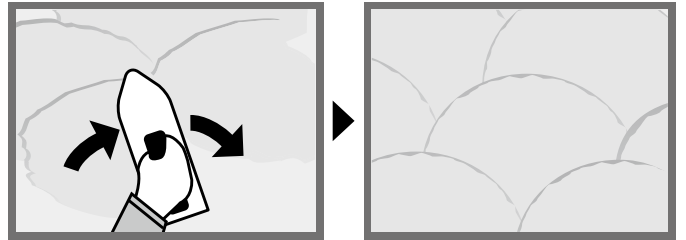
模様の付け方

■ 模様付けは上塗材を付けた後、表面水が引かないうちに直ちに行ってください。

- ※塗り面の水引き及び乾燥が早い場合には、塗り面に軽く霧吹きをしながら模様付けを行ってください。
- ※表面乾燥後の模様付けはできません。特に夏期の施工には注意してください。
- ※塗り付けと模様付けは2人で分担して行うと仕事はかどります。
- ※入隅や出隅の仕上げは、模様付け後に面引き鏝で面取り仕上げすることも可能です。
- ※模様付けの際、鏝、刷毛、専用のパターンカートリッジ、ローラーに付着する塗材は水で洗い流し、よく水を切ってお使いください。

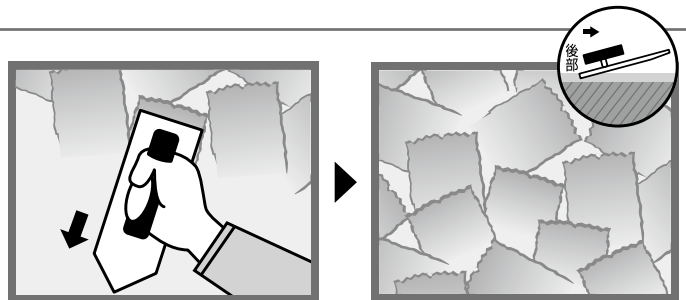
扇仕上げ

鏝で扇模様を全面に付け、鏝跡を残します。



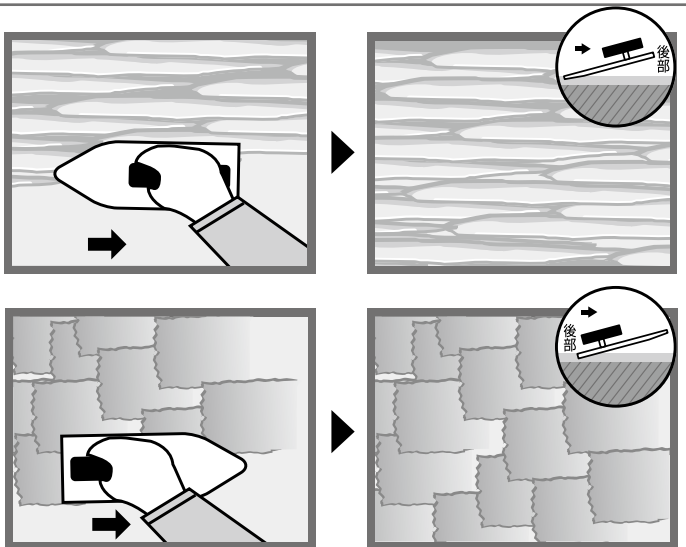
スパニッシュ仕上げ

鏝の先端部を浮かせ気味にして、後部で縦、横、斜めに押さえながら模様を付けます。



ヒキズリ仕上げ

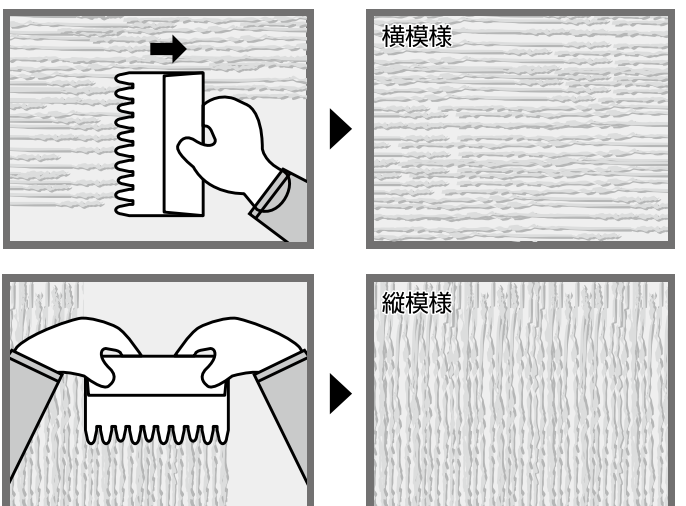
鏝の先端または後部で模様を付けます。



ウェーブ仕上げ

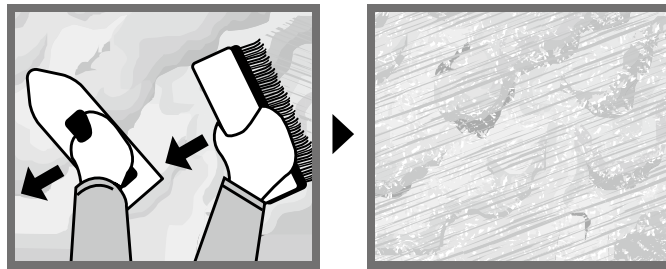
専用のパターンカートリッジ(別売)で、30～40cm位の長さで掃くような感じで2～3度繰り返しながら縦または横に付けます。

※「パターンカートリッジ」には「細目」「粗目」があります。



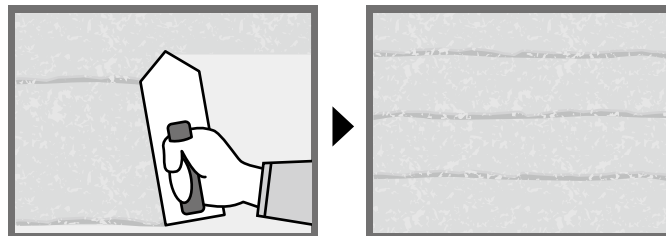
ラフ仕上げ

塗り付けた塗り面(2.0mm程度の平滑面)の上に、さらに部分的に塗り材を盛り付けます。また、好みに応じて表面を刷毛引きします。



縹波仕上げ

表面水が引かないうちに0.3mm厚のステンレス縹で縹波を残して仕上げます。



※コテバケでも模様付けできます。さまざまなパターンをお試しください。

施工上の注意

- 本品は、「exシーラー」「ブロック目地処理材」「上塗材」の2㎡セット品です。各工程で間違いのないようにご使用ください。
- 下地は、十分乾燥させてください。
- 強度がない下地は、剥離の原因になりますので塗り直してください。
- 釘などで錆の恐れがある場所には錆止めを施してください。また、塗り替えて釘頭が錆びている場合は、サンドペーパーや研磨布を用いて錆を除去し、錆止めを施してください。
- 「ブロック目地処理材」は「exシーラー」が指触乾燥してから塗布してください。また「上塗材」は「ブロック目地処理材」が十分に乾燥してから塗布してください。
- 混練りした材料は、その日のうちに使い切り、使用器具は早めに水洗いしてください。
- 大きな面に施工する場合、美しい仕上げを行うために1.8mピッチ程度で見切り目地を入れてください。「SK抜き目地棒(2mm厚)」(別売)があれば便利です。
- 「上塗材」及び「ブロック目地処理材」の粉体原料と液体原料はセットされたものを使用してください。
- 5℃以下での施工は避けてください。
- 巾木(基礎)部及び土留めには施工できません。
- 施工後、塗り面が完全乾燥するまでに、0℃以下になる恐れがある場合には施工を避けてください。
- 乾燥時間は、夏期一昼夜、冬期二昼夜を目安としていますが、気象条件、塗り厚などによってはそれ以上の期間を要することがあります。
- 乾燥しきらないうちに雨に当てないでください。降雨の恐れがある場合には必ずブルーシートなどで養生を行い、塗り面に雨がかからないよう注意してください。
- 柱など塗り付けをしない場所は、養生してください。作業中、誤って柱やアルミサッシに塗り材が付着した場合には早めに洗い流してください。
- 夏期、下地が焼けるような高温状態のときは、下地に微量の水打ちをしたり日除けをして、急激な乾燥を避けてください。また、直射日光を避けて作業を行ってください。
- 直射日光の当たる場所、湿気の高い場所、高温(40℃以上)、低温(0℃以下)での保管は避けてください。
- 本品は、天然土・砂が主原料ですので、ロットによる多少の色違いはご容赦ください。

注意事項

- 安全に関する注意事項については、安全データシート(SDS)をご確認ください。

ご不明な点がございましたら、詳細は包材の裏面に記載してありますので、ご覧ください。